

# 「共に生きる力を育てるエイズ学習」その3

中学2年生

## 1 ねらい

- 生命が誕生する仕組みを学び合う中から、生命が生まれてくるまでの神秘や互いの命の尊さに気付き、人間一人一人の持つ人権の意味を考える。
- 触れ合いの性についての学習から、生殖以外の性交の意味について考える。また、触れ合いの性で大切にしなければならないことは、互いに思いやる気持ちであることに気付く。
- HIV感染者やその家族の方々の生き方について、その身近な心情にふれ、共に生きていくこととはどういうことなのかを問い直すことができる。

## 2 指導計画（1年間の単元展開例）

※ 人権教育の視点で扱う題材

時	題材（教科等）	活動内容（人権教育の視点）	評価
1	①生命の誕生〈新しい生命の生まれる仕組み〉 （学級活動） ※	• 生命誕生の仕組みを科学的に理解すると共に、生命の連続性や、自分たちも生命を育てる存在へと成長していることにも気付く。  （知識理解、生命尊重）	• 性交から出産にいたるまでの生命誕生の仕組みについて理解する。
1	②とっておきの触れ合い （学級活動）	• 幼少の頃よりのスキンシップの経験を思い起こすことを通して、「触れ合いの性」の意味に気付く。	• 触れ合いの性で大切にすることに気付く。
1	③HIV感染者の生き方を知ろう （学級活動・道徳） ※	• 感染者と未感染者が意見や思いを分かち合い、理解を深め合うことを目的に発行されている月刊通信誌『H.I.Voice』を読み合い、感染者の身近な心情にふれる。  （共生、意欲の育成）	• 感染者やその家族の思いを身近に感じられる。
1	④HIV感染者の生き方に学ぶ〈限られた命を大切にすること〉 （学級活動） ※	• 感染者が、悩みながらも真剣に生きる姿に「頑張ってほしい」という感想をもった生徒たちが、感染者の家族が「がんばっての言いっぱなしはやめて」と訴える文章に出会い、その心情を考え合うことを通して、一人一人が自分自身を見つめ直し、共に生きようとする意欲を高める。  （共生）	• 「頑張れ」という言葉に含まれた、第三者的意味に気付く。 • 共に生きようとする意欲を高める。
1	⑤『H.I.Voice』に手紙を書こう （学級活動） ※	• 前時までに、互いに考え深め合ってきた素直な自分自身の気持ち、感染者やその家族の方々に寄せる思いを、投稿するつもりで手紙を書く。  （共生、態度の育成）	• 自分はどうかという思いを綴れる。

### 3 具体的な活動内容

#### A 題材名「H I V感染者の生き方に学ぶ

－限られた命を大切にすること－ (5時間中第4時)

#### B ねらい

- ・H I V感染者や家族の方々が、日常生活の中で思っていること悩んでいることなど、ありのままの気持ちを読むことで、H I Vに感染していること以外に、なにも私たちと変わらないのだ、ということに気付くことができる。
- ・「頑張ってるの言いっぱなしはやめて」と訴える感染者の家族の言葉に触れ、「頑張れ」という言葉の持つ無責任さの一面に気づき、自分自身を見つめ直すことができる。

#### C 指導上の留意点

- ・ただ単に「頑張れ」でなく、「共に頑張ろう」、「自分も頑張ろう」という意識に変わることが、共に生きることにつながるのだという点を大切にしたい。
- ・H I Vの恐怖とたたかうこと以前に、一人の人間として生きぬこうとしている姿勢を取り上げ学ばせたい。

#### D 実践記録

時間	児童の活動	指導・支援
つかむ 10'	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『H.I.Voice』を読んで感じたことを発表し合う。(エイズに負けず強く生きている人たち、すごい、感動した。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『H.I.Voice』のどの文を読み、どんなことを感じたか多くの生徒が発表できるようにする。</li> <li>・感染者の方や、その家族の方々に対する、素直な応援の気持ちを、『H.I.Voice』に伝えたいという思いを大切にする。</li> </ul>
ふかめる 30'	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チョコチップメロンパンさん(ペンネーム)の文を読む。</li> <li>※資料 P173</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">                     このように言われたら、皆さんは何て言ったらいいのだろう？                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『H.I.Voice』に投稿するとしたら、何て書いて送ったらいいか考える。</li> <li>・投稿する文を書く。</li> <li>・自分の書いた文を発表し、友達の発表を聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「がんばって！と言わないで」と言われたら、どんなことを書いて『H.I.Voice』に送ったらいいかを考える。</li> <li>・自分なりの考えを生かして、『H.I.Voice』に投稿するつもりで文章を書くようにする。</li> <li>・書いた文章を発表する。</li> </ul>
まとめる 10'	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感想を書き、発表する。(私たちも、精一杯生きていきたい)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の授業の感想をカードにまとめ発表する。</li> </ul>

### 4 評価

- ・「がんばって」と言う言葉は、相手を励ます言葉だと思いがちであるが、状況によっては相手を突き放す言葉になったり、無責任な言葉になったりすることに気付くことができたか。

- ・感染者も未感染者もエイズと共に生きる社会をつくる仲間として、互いに理解し合い、共に行動することの大切さに気づけたか。
- ・一人一人の生命の重みと生きる権利になんら変わるところはなく、ただそれぞれに生きている状況が違うだけであるという現実から、自分自身はどう生きていったらよいか、見つめ直すことができたか。

## 5 成果と課題

### 【成果】

- ・エイズは自分とは関係ない遠い人のことと思いがちな生徒たちが、H I Vと共に生きぬく感染者やその家族の方々の考えや生き方にふれ合うことで、私たちと同じように生活の中の一つ一つに悩んだり喜んだりする姿を、自分自身の生き方と重ね合わせ、身近な自分のこととしてとらえることができるようになってきた。
- ・本時まで、資料「H.I.V o i c e」に載せられた幾つかの投稿を読むことで、感染者の方々を励ましたり応援したいと意識が高まってきたところでの、「がんばっての言っぱなしはやめて！」の投稿には、相当なインパクトがあり、「どうしたらいいんだろう」と真剣に悩む生徒、「せっかく心配したのに、そんなこと言われりゃ、がっかりしちゃうよ」と投げやりになる生徒等、さまざまな感想が出てきたが、そのどれも否定せずに、みんなで考え合うかたちで深めあうことがよかった。
- ・生命の重みを感じることからスタートした学習であるが、H I V感染者やその家族の方々の生き方と直面しながらも、結局わたしたちと何も変わらない、ひとりの人間としての生き方を学ぶ学習となった。そして、自分自身をより深く見返すきっかけにすることができた。

### 【課題】

- ・性交の扱いは、養護教諭等と連携して慎重に行いたい。

